1. 投手の12秒、20秒ルール【5頁】

- ・投手は、捕手、そのほかの内野手または審判員からボールを受け取り打者に面した後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合には20秒以内に投球動作を開始しなければならない。違反した場合、球審は直ちにボールを宣告する。
 - ・12秒を経過したとき、または20秒を経過したとき、二塁審判(三塁審判)は「タイム」を宣告し、頭上で大きく手首を叩いて球審に12秒、20秒が経過したことを伝える。
 - ・タイムの宣告にもかかわらず投手が投球した以後のプレイは無効とする。学童部、少年部については、球数に入れる。
- 計測は、投手がボールを所持し、打者がバッターボックスに入り、投手に面したときに始まり、投手が投球を開始したときに終わる。

※審判員は5.07(C)(1)(2)について、強く指導すること。

(1)投球を受けた捕手は、速やかに返球すること。

(2)投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につくこと。

2. マナーを守った節度ある応援について【8頁】

- ・マナーを守った節度ある応援をしてもらうように取り組む
 - ・懸命なプレイや素晴らしいプレイには、自チーム、相手チームに関係なく、大きな賞賛を送る野球環境をつくる。
- 応援や演奏が開始できるのは、「プレイ」以降であり、鳴り物を使つての応援は自チームの攻撃時のみとする。応援や演奏の開始は各イニングの先頭打者がアナウンスされてから、もしくは、「プレイ」が宣告されてからとし、3アウトになった時点で応援や演奏をやめる。

3. ベンチの入れ替え【29・37頁】

- ・ベンチは、組合せの若い方を一塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合はベンチの入れ替えは行わない。

4. シートノック時の補助員のヘルメット【31・38頁】

- ・ダートサークル内に留まる、あるいは出入りする補助員はヘルメットを着用すること。
- 学童、少年におけるコーチ(大人)も含めてヘルメット着用

5. サイドノック

- ・サイドノックとは、ベンチ前を利用して塁間程度の距離でゴロの捕球練習をすることを言う。ノッカーにボールを渡す選手や野手からの送球をノッカーの近くで捕球する選手は必ずヘルメットを着用すること。
- サイドノックでの飛球は禁止。塁間以上の距離をノックすることも禁止(ベンチ前から外野へ打つなど)

6. 頭部にヒットバイピッチを受けたとき(学童・少年・一般共通)【32・39頁】

- ・選手の安全確保を第一に、その程度を問わず、球審は臨時代走の処置を行わなければならない。
- かすった程度でも臨時代走

7. プレイを利用して相手選手を欺く行為の禁止【53頁】

- ・プレイを利用して相手選手を欺く行為(アンフェアプレイ)を禁止する。現実に欺く行為が行われた場合、ボールデットとして審判員の判断で進塁を認めるかプレイを無効にする。
- 走者2塁のケースで、投手が二塁けん制を偽投した際、遊撃手、二塁手がわざとこけて、中堅手付近に

ボールがいったようにみせかけ、2 塁走者をアウトにするプレイは欺く行為。
→ピックオフプレイは OK

8. ユニフォームの上着【58頁】

- ・ユニフォームの上着はきちんとズボンの中に入れること。
- 裾がゴムになっているレイヤータイプのもの禁止
- ズボンに入っていれば、ベルトにかぶる着方は OK。

9. 投手用グラブについて【59頁】

- ・グラブ本体(捕球面、背面、ウエブ)は 2 色まで可。ただし、白／灰色／PANTONE の色規準14番より薄い色の使用は禁止する。
- ・氏名、背番号、チーム名などの刺繍糸の色、大きさ共に制限なし。
- ・ハミダシ、紐、指かけ、柄模様についても制限なし。

10. 学童部バットの使用制限【59頁】

- ・安全面を考慮し、学童部では、一般のバットのうち、打撃部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属性・カーボン製・複合(金属／カーボン)バットについては、使用制限は行わない。(注)少年用バットの使用制限は行わない。

→用具・装具点検時に確実に点検する。

→規則6. 03(a)打者の反則行為によるアウト

(5)打者がいかなる方法であろうと、ボールの飛距離を伸ばしたり、異常な反発力を生じさせるように改造、加工したと審判員が判断するバットを使用したり、使用しようとした場合。

<中略>打者はアウトを宣告され……

【原注】打者がこのようなバットを持ってバッターボックス内に入れば、打者は規則違反のバットを使用した、あるいは使用しようとしたとみなされる。

【注】アマチュア野球では、このようなバットを使用した場合、打者にはアウトを宣告するにとどめる。

11. アップ、トレーニングのための補助具の使用【60頁】

- ・メディシンボール等、アップ、トレーニングのための補助具は打順表の提出まではしようすることができる。

→トレーニングのための補助具(ラダー、ミニコーン等)

→球場のルールに従うこと(ボールをフェンスにぶつけない等)

→打撃練習はトスのみ。シャトルやプラスチックボールを使つての打撃練習はこれまで通り禁止

12. 試合球について

- ・球審は、1 回表及び1回裏開始前、新しいボール(=未使用球)を手渡す。5 回終了時に使用球を新しいボールと交換することはしない。

→ボールバッグに新しいボールを 1 個持つておく。

13. 外審のポジショニング・外野への打球の責任範囲・メカニクス等【247頁】